

令和4年9月16日

南の風特集プラスI 恩塚 HC の目指すものⅢ

南部地区ミニバスケットボール連盟
会長 藤原 敬一

恩塚 HC の話の続きです。

「まず、そういうところから入ったら、結果的にいいパフォーマンスになると思うし、人生が豊かになるんじゃないかなって気がしますね。僕らは勝つことが目標ですが、どんな自分になりたいとか、どんな人生を生きていっていかってということの方が大事だと思うので、そこから逆算していった方がいいと思います」

恩塚 HC は「目標はオリンピックで金メダル」と宣言した。ホーバス HC の意思を継ぐ高い目標だ。と同時に、恩塚 HC にはもう一つの目標がある。「ワクワクが最強」というコーチング、怒らないコーチングを、日本スポーツ界の常識にしていくことだ。

恩塚 HC 自身、試行錯誤してたどりついたコーチングだが、同じようなやり方をしている人は、日本中にいるはずだと言う。

「中には僕よりいいパフォーマンスで導いている人もいます。ただ世間では強いチームの方が話題になることが多く、その多くの指導者が高圧的という状況なので、そちらの方が目立ってしまう。そして結果を出せないと、『怒れないコーチ』、『あいつは甘い』と批判され心が折れてしまう」

恩塚 HC が今、積極的に発信しているのはそういったコーチへの応援メッセージでもある。日本代表チームを『ワクワクが最強』のコーチングで率いているコーチがいると知れば、同じような感覚でやっているコーチたちも心強く思ってくれるかもしれない。そこから輪が広がっていくことに期待している。

「このやり方は、僕自身が勉強して成長していくのが楽しいっていうモードになっていないといけない。そうでないと選手も『なりたい自分になろう』とは思えない」

自分自身が心身の状態をよくし、成長を目指すことで選手たちの変化を促進する。例えば恩塚 HC は、毎日朝日を浴びストレッチをして、心身を整えている。

体育館に入ったときは、大きな声で挨拶をするようにしている。すると以前は遠くから小さな声で答えていたような選手たちも、近づいてきて笑顔で挨拶をしてくれるようになったという。

「そういうときに人生変わってよかったなって思います。自分の状態をよくするっていうのがキー。そうやっていったら、コーチも選手もどっちも幸せになれる。それを共有したいなって思ってこういうお話をさせていただいているんです。本当に僕、変わってよかったなと思っているんで」

「自分が変わるなら生きているうちに」→ 恩塚 HC がよく使うフレーズです。

そして、FIBA2022女子ワールドカップ≪9月22日(木)～10月1日(土)於オーストラリア・シドニー≫を戦う12人の最終メンバーが発表されました。今年5月の第1次代表候補に選考召集した27人からスタートし、強化合宿、オーストラリア遠征、三井不動産カップ国際強化試合、6月のトルコ戦、8月のラトビア戦を経て最終選考に至ったのです。恩塚 HC は、これまで参加してきたすべての選手たちに感謝するとともに、「その選手たちの思いを背負って戦うことを大切にし、日本一丸で世界一を目指します」とコメントしました。

次号では12人に絞り込んだ経緯を含めて、恩塚 HC のコメントを紹介してまとめにします。